

豚熱・アフリカ豚熱対策としての野生イノシシの捕獲等に関する防疫措置の手引き（岩手版）

（岩手県農林水産部畜産課 令和3年12月10日作成）

□ 本手引きについて

宮城県、山形県の野生イノシシにおいて、豚熱感染が拡大していることから、本県への侵入リスクが高まっています。豚熱ウイルスは感染イノシシの体内だけではなく、糞便や血液等にも含まれるため、環境が汚染されている可能性があります。

野生イノシシの捕獲等を通じて養豚農場に豚熱感染が拡大することを防ぐため、必要な防疫措置を本手引きに整理しましたので、活用願います。

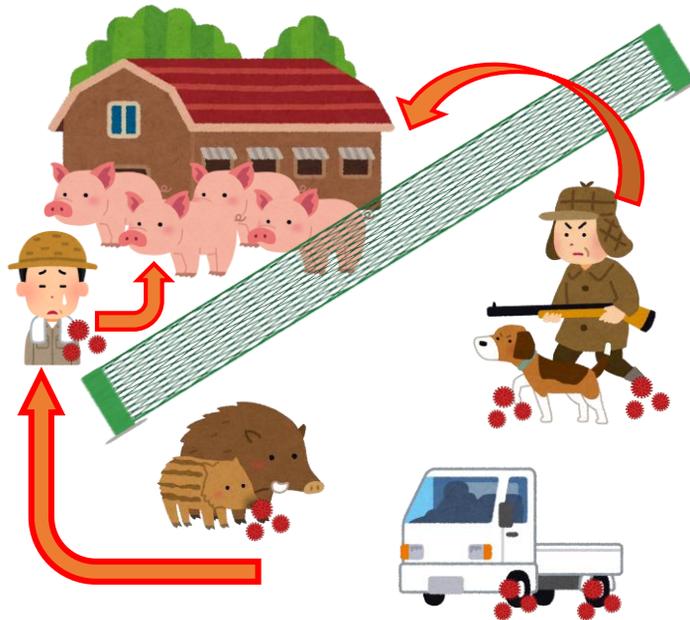


□ 豚熱・アフリカ豚熱とは

豚及びイノシシに感染する伝染病で、強い伝染力と高い致死率が特徴です。ひとたび本県の養豚農場で発生すると、養豚業界に甚大な経済的損失を与えるだけではなく、豚の流通が制限されるなど、県民の皆様の生活に影響を及ぼします。

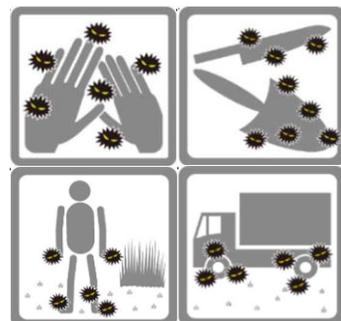
□ 豚熱ウイルスが狩猟者から養豚農場に侵入する経路

- 1 豚熱ウイルスに汚染された狩猟者（人）が養豚農場に立入る
- 2 豚熱ウイルスに汚染された猟犬が養豚農場に侵入する
- 3 豚熱ウイルスに汚染されたタイヤで養豚農場付近を通行し、道路を介して養豚関係者の車が豚熱ウイルスに汚染され、農場に持込む
- 4 豚熱ウイルスに汚染された衣類・履物で移動し、道路などを介して養豚関係者が汚染され、農場に持込む



□ 防疫措置の基本的な考え方

- 1 ウイルスを付着させない
- 2 ウイルスを持運ばない
- 3 狩猟時と日常生活の衣服・履物を分ける
- 4 養豚農場に近づかない



□ 必要な防疫措置

- 1 イノシシの捕獲等をした後、7日間は養豚農場に近づかないこと
- 2 養豚農場付近で、猟犬を使った猟を行わないこと
- 3 捕獲等を行うためイノシシが確認されている地域に立入った車は、捕獲等が終了する都度、**タイヤ回り、運転席の足元等、土・汚れが付いた部分を洗浄・消毒**すること
- 4 捕獲等で使用する衣服・履物とそれ以外で使用する衣服・履物は、**必ず分け、着脱の際にも、交差しない（接触しない）**ように管理すること

□ 防疫措置のための区域区分

1 感染確認区域

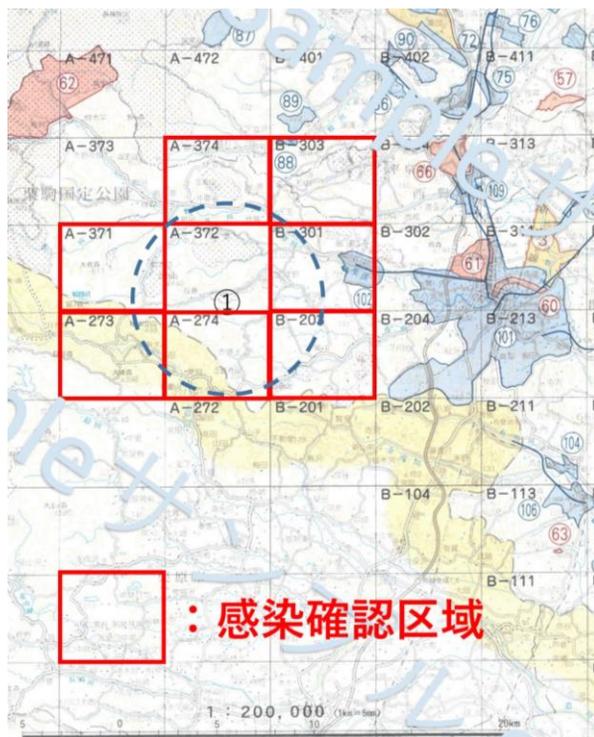
野生イノシシで豚熱・アフリカ豚熱の感染が確認された地点から、半径10km圏内にかかる岩手県ハンターマップのメッシュ区画に含まれる区域。

【岩手県HPに公表】

<https://www.pref.iwate.jukoyou/nougyou/chikusang043992/index.html>

2 その他の区域

上記以外の区域。



□ 県内で豚熱感染イノシシが確認された場合

1 感染確認区域

捕獲したイノシシは、原則、**現地で埋却**すること。埋却が困難で、捕獲したイノシシを移動させる際は、ウイルスの拡散防止措置（4ページ目5の（1））を実施したうえで移動することとし、その場合にあっても、**感染確認区域外への移動はさせない**こと。

ただし、岩手県が実施する**豚熱検査で陰性を確認した個体は、その限りではありません**（採材・送付容器は地区猟友会を通じて配布）。

検査で陽性となった場合は、検体送付後7日以内に岩手県猟友会を通じて、捕獲者に連絡します。

2 その他の区域

1に準じた対応を行うこと。

□ 具体的な防疫措置

1 事前準備

- (1) 別紙「持ち物チェックリスト」により、必要な資材等を準備する。
- (2) 消毒薬を用意する。

消毒薬	用途	注意事項
逆性石鹼 (塩化ベンザルコニウム等)	・長靴、器具、車両、地面などの消毒（消毒薬噴霧器）	・説明書を確認のうえ、適切な濃度に希釈して使用する ・消毒の対象物がしっかり濡れるまで噴霧や浸漬を行う
消毒用アルコール	・手指、防護服や作業着、器具などの消毒 ・車内の消毒	
消石灰	・地面等の消毒	・約 30 分の作用時間が必要 ・農地で散布する場合は、土地がアルカリ化し、作物に影響を与える可能性があることから、事前に土地所有者に了解を得る

(3) 資材等の積込

- ① 荷台に汚染防止用のシート等を敷き、資材等を積込む。
- ② 車内の汚染を防ぐため、足下に消毒可能なマットを敷く。
- ③ 荷台では、汚染物とその他の物の置き場所を明確に区別する。

2 現地到着・準備

- (1) 手袋等の着用
- (2) **専用衣服・長靴の着用・消毒**
前回の汚れでウイルスを持ち込まないように、噴霧器で消毒する。
- (3) 捕獲作業に必要な資材の準備
わな設置に必要な器具、交換用手袋、アルコールスプレー、消毒薬噴霧器を運搬用カゴ等に入れる。



3 わなの設置・餌付け・見回り

(1) わなの消毒

わなを移設又は撤去する際は、その都度、消毒する。運搬用カゴはビニール袋などを敷き、その上に置く。

消毒の臭いでイノシシが警戒する可能性があることから、消毒後は水で洗い流し、臭いを消してから使用するとよい。



(2) 手袋の交換

手袋は、土やわな等に触れる作業中に破れたときは、直ちに交換する。移動する都度、手袋を交換する。

4 捕獲・止刺

イノシシの体表や周辺環境などは、猟具の種類に関係なく、イノシシの血液や体液等で汚染されている可能性があるほか、止刺を行うことで作業従事者や器具等も汚染されるため、特に以下の点に注意する。

- 防護服等を適切に着用して作業する。
- 使用する器具などは、イノシシに関する捕獲作業専用にする。
- 使用した器具は、十分に消毒する。

(1) 防護服（雨合羽等）の着用

捕獲作業時は必ず着用すること。

(2) 器材等の消毒

銃器は、使用後にアルコールで拭くなどの消毒を行う。

ナイフ等は、血液等をふき取った後、消毒する。

猟犬は、足裏を中心に、体表の汚れを落とし、消毒薬を噴霧する。

5 捕獲個体の処理・消毒

(1) 現場から運搬する場合

- ① 捕獲個体に消毒薬を噴霧する。
- ② 厚手のビニール袋やブルーシートで二重に包む。
- ③ ビニールテープやガムテープで留める等により、血液や糞便等が漏れ出さないようにする。
- ④ ビニール袋やブルーシートの表面を消毒し、運搬する。



(2) 現場で埋却を行う場合

- ① 野生動物が掘り返したり、風雨等により容易に捕獲物等が露出しない深さ（覆土約1m）に、穴を掘る。
- ② 消石灰を入れる。
- ③ 死体を置く（ブルーシート等に包まない）。
- ④ 死体に消石灰をまく。
- ⑤ 土を十分にかける。
- ⑥ 埋却場所に消石灰をまく。



(3) 捕獲場所周辺の消毒

- ① イノシシの血液等の体液や糞尿等が付着した地点、くくりわなで捕獲されたイノシシが動き回った範囲、採材のためにイノシシを移動させた範囲を、地表面が湿るまで消毒薬を噴霧して消毒する。
- ② 可能な場合、消毒薬の散布に加えて、消石灰を散布する。

(4) 使用した資器材の消毒

使用した資器材にアルコールを噴霧し、十分に消毒する。



(5) 防護服（雨合羽）の脱衣、手袋の交換等

- ① 手袋にアルコールを噴霧し、交換する。
- ② 防護服（雨合羽）全体にアルコールを噴霧し消毒したうえで脱衣し、手袋とともにビニール袋に入れ、持帰り洗濯する。

(6) 回収場所からの退出

靴の底の泥や落ち葉などをブラシなどで取除いてから、長靴と使用したブラシを消毒薬の噴霧器で消毒し、捕獲・回収現場を離れる。

6 運搬

- (1) 運搬する前に再度、ブルーシートから血液や糞便等が漏れていないか確認する。
- (2) 運搬中、ブルーシート等が破れ、イノシシの血液等がこぼれた場合は、改めて防護服を着用した上で、その場所に消毒薬を噴霧して消毒する。

7 駐車場到着・移動

(1) 捕獲個体・使用器具の積込

- ① 車両の荷台等に、汚染防止用にブルーシート等を敷く。
- ② 消毒してから積込む。

(2) 猟犬の消毒

- ① 体表及び足裏の泥汚れなどを十分に落とす。
- ② 可能であれば、体表、特に足裏に消毒薬を噴霧し、消毒することが望ましい。
- ③ リード等の器具を消毒薬で消毒した上で、荷台に乗せる。

(3) 車両の消毒

- ① タイヤとタイヤ周りは、ブラシ等で土や汚れを落とす。
- ② 車両で土や汚れが付いた部分を中心に、消毒薬を噴霧する。



(4) 衣服、手袋、長靴の消毒、乗車

- ① 長靴の泥、落ち葉などをブラシなどで取除く。アルコール・スプレーや消毒薬で全身を消毒し、作業靴等に履替える。
- ② 長靴と使用したブラシを消毒薬の噴霧器で消毒する。
- ③ 手袋を外し、アルコール・スプレーで手指を消毒する。
- ④ 作業靴等の裏とドアノブをアルコール・スプレーで消毒してから、乗車する。

8 帰宅後の対応

- (1) わな等の器具の消毒
- (2) 使い捨て資材の適切な処理
- (3) 入浴・作業着の洗浄
- (4) 養豚農場や養豚関連施設に近づかない

□ 最後に

養豚農場での発生を防止するため、野生イノシシからの豚熱の侵入を防止することに加え、野生イノシシの間で豚熱感染が拡大しないよう、個体数の減少が必要です。

狩猟者の皆様の御理解と御協力をお願いします。

問い合わせ先

岩手県農林水産部畜産課 振興・衛生担当

電話：019-629-5729

(別紙) 持ち物チェックリスト

品目	数量	備考
防護服（雨合羽等）	人数分×見回り 地点数+予備	基本的に使い捨ての防護服を想定するが、 雨合羽などで代用可（ただし、雨合羽な どは捕獲時の専用のもとし、使用後は 適切に処理（消毒、洗濯）すること）
薄手ゴム手袋（内側）	多めに用意	作業中は手袋を二重に装着 内側手袋は検査用手袋等の薄手のゴム手 袋を用意する
厚手ゴム手袋（外側）	多めに用意	外側手袋は、作業場所ごとに交換するた め多めに用意し、消毒・洗浄後に再利用 可能なものでもよい
長靴	人数分	作業する時に履く
バケツまたはコンテナ	長靴が入る数	長靴の消毒・車内保管用
消毒薬の噴霧器	1個以上	希釈した消毒薬を補充しておく 噴霧器の容量は4L程度が望ましい（捕 獲時は1箇所の消毒に2L以上必要とな ることもある）
アルコール・スプレー	2本以上	消毒用アルコールを補充しておく 1本は車内で、1本は作業時に使用
運搬用カゴ	1個以上	必要な器具の持運びに利用
ブラシ等	1本以上	靴底、わな、タイヤ等の泥落としに利用
ゴミ袋（大・小）・ビニール袋等	多めに用意	ゴミを入れることにより、車内等の汚染 を防止 現場での荷物置場として利用
ティッシュ・紙タオル類	1箱以上	器材に付いた血液等のふき取りに利用
採材セット ・ナイフ等 ・試験管 ・チャック付きポリ袋2種 ・クーラーボックス等 ・保冷剤 ・血液輸送容器 ・血液を受けるバット等	見回り地点数 +予備 1個以上 適宜、必要数	岩手県猟友会が配布するもの 岩手県猟友会で配布するもの 検体の保管・持運び等に利用 消毒できるものを使用 試験管が入る大きさのもの
ブルーシート	数枚	荷台の汚染防止 現場での荷物置場として利用
ブルーシート、厚口ビニール袋、フレコンバック等	見回り地点数 ×2+予備	イノシシを搬出する場合に使用 爪や牙で破れないよう強度のものが 必要 二重に包むため1か所で2枚必要
スコップ	作業する人数分	